

農技セ第2558号
平成20年11月28日

各関係機関長 殿
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

平成20年度農作物病害虫発生予察情報について

平成20年度農作物病害虫発生予察特殊報第3号を公表したので送付します。

平成20年度農作物病害虫発生予察特殊報第3号

平成20年11月28日
徳 島 県

1 病害虫名：ルイスアケハダニ（旧和名：ルイスハダニ）
Eotetranychus lewisi (McGregor)

2 発生作物：ポインセチア

3 発生地域：吉野川市

4 発生の経過状況

平成20年10月、ポインセチアに寄生しているハダニについて、吉野川農業支援センターより診断依頼があった。本所で調査したところ、退色した葉裏にはこれまで確認したことのない多数のハダニが寄生していた。このため、農林水産省神戸植物防疫所に同定を依頼したところ、本県では未確認のルイスアケハダニであることが判明した。

なお、現在のところ、発生は当該圃場の一部にとどまっている。

本種は、アメリカ、メキシコ、中米、ハワイ、アフリカなどでポインセチアを始めカンキツ類などの害虫として知られており、我が国では平成9年に奈良県で初めて発生を確認した。その後、平成10年に愛知県、平成13年に千葉県、平成14年に茨城県及び埼玉県において、何れもポインセチアでの発生を確認している。

本種の和名は、「ルイスハダニ」から改訂された（江原ら，2004）。

5 形態

成虫の体色は、緑色から白色に近い物まで幅広く、体側に黒点を有する。ナミハダニに似ているが、それより小さく細長い。雌成虫は、体長0.47mm内外、体幅0.24mm内外、雄成虫は0.34mm内外、体幅0.17mm内外である。雄の挿入器は、先端にかけてゆるやかにS字状を描いて徐々に細くなる独特の形態なので、ナミハダニとは容易に識別できる。

また、卵には短い柄がついている。

6 生態

卵から幼虫、第1若虫、第2若虫を経て成虫になる。幼虫、若虫、成虫は主に葉裏に寄生し、吸汁加害する。産卵から成虫までの期間は雌で平均14.5日、雄は12日とされる。雌成虫の寿命は30日以上と言われている。雌の1日の産卵数は平均5卵、卵は白色ないし淡橙色である。

7 被害の特徴等

本種による被害は吸汁によるもので、他のハダニ類の加害による症状と同様である。

加害された葉は退色し，やがて黄化する。加害が進むと落葉する。

8 寄主植物

ポインセチアの外，カンキツ類，モモ，イチジク，パパイア，オリーブ，ヒマ，マツ類，クローバー，ハイドランジアなどに広範囲に寄生する。

9 防除上の注意等

- 1) 寄生のない健全な苗を使用する。
 - 2) 本種は，苗等によって移動している可能性があるため，苗導入時に防除を徹底する。
 - 3) 生育期の葉裏をよく観察し，葉の退色の早期発見に努め，発生を認めたら早い時点で，葉裏を重点に十分な量の薬剤を散布する。
 - 4) 多発した場合は，卵期間等を考慮して7～10日間隔で続けて薬剤散布し，完全に防除する。
 - 5) 既発施設では，親株の防除を徹底する。
 - 6) ポインセチアに適用のあるピリダベン水和剤，キノキサリン系水和剤*，ピリミホスメチル乳剤は，本種に有効であることが先発地で確かめられている。
- * 高温時の薬害に注意。



ルイスアケハダニによる被害葉



ルイスアケハダニ成虫（写真提供：農林水産省横浜植物防疫所）

引用文献 1) 江原昭三・後藤哲雄（2004）：植物防疫 58：320～324.